



目次	説教の課題	幸いなるかな！ 東京中会伝道局の現状と課題 - 伝道局理事長としての二年間を振り返りつつ	稲葉 眞	1
	旧約聖書に聴く	現代に何を語るか ダニエル書 (4)	住谷 眞	2
	信仰問答を学ぶ	歴史の中の信仰問答 (3)	古賀 清敬	3
	教会、この地とともに	⑭ 岡崎伝道所 主が与え給うた光栄	渡辺 信夫	4
	三浦綾子の生涯と作品について	(3) 愛の証の文学 女は男の肋骨から生まれた	渡邊 猛勝	5
	こいのにあ	刷り込みからの解放 ～<創られた伝統>を越えて～	森下 辰衛	6
	こいのにあ	旅の始まりを共に感謝(神学校卒業式)	芳賀 繁浩	7
	こいのにあ	近畿中会伝道協議会 共に祈り合い、支え合うために	岩本 道子	7
		教会ニュース	藤田 浩喜	8
				8

幸いなるかな！

心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

(マタイによる福音書5章3節)

いな ば はじめ
稲 葉 一

主イエスが共に神の御国を求める人々に語る、神の隣みの御言葉である。ユダヤの社会、貧しい生活苦の隣人が神の救いを求める時。「イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこでイエスは口を開き、教えられた」(マタイ5:1-2)。そこに集う者は、幸せを求めている。自分と共に隣人の幸せをも望み、家族と仲間とも助け合い集まる所。ここを、主イエスを囲んで、礼拝を捧げる天の国として、聖書は記す。主イエスの語る福音の御言葉からは、いつも父なる神の御心が聞こえる。聖書が記す、「人の幸せ」とは何か、主イエスが地上で隣人として出会った一人一人の信仰の心に寄り添われて共に共感された幸いとして証言される。最初に、「幸いなるかな！」と祝福の聲が響き渡る。主イエスが救い主としてこの地上の隅々にまで照らされる神の御国の幸いを聴く信仰心が暗闇から起こされる。不幸な人として生きる必要はない。暗闇の中に留まっている必要もない。主の御言葉を生かす御霊の助けにより信仰を心に抱く人は、主の「幸いなるかな」に御国のビジョンと夢を見て主の道に従う。「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」。主イエスは父なる神様の憐れみ深い御心を告げるが、それは、主ご自身が身を以て腸のねじ切れ

ような十字架の上からの御言葉に連なる。「父よ、彼らをお赦しください」(ルカ23章34節)。聞く者の社会的・精神的・肉体的・そして霊的な貧しさで主の癒しを渴き求める信仰心に命の清水として浸みわたる。さらに、今日も主の隣みの御声が世に建てられた教会から響き渡る。「悲しむ人々は、幸いである」「柔和な人々は、幸いである」「義に飢え渴く人々は、幸いである」「憐れみ深い人々は、幸いである」「心の清い人々は、幸いである」「平和を実現する人々は、幸いである」「義のために迫害される人々は、幸いである」と神の御国の祝福を主イエスが聖霊の御力にて、隣人である一人一人の心に与えられる。主イエスの隣人とは、主イエスが愛された聖書、申命記24章に記されている、主なる神の隣みが注がれている人たちである。続いて、主イエスが出会い罪を赦され病を癒され救われた隣人たちは、みな「心の空虚」に御国の幸いを満たされた者。そのうちの一人、誰も隣人にならなかった徴税人が「神様、罪人の私を憐れんで下さい」と祈る心に主の隣みが注がれる(ルカ18:9-14)。主イエスは、彼の神への回心の信仰を見て喜ばれる。神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすみません(詩篇51:19)。

(柳川教会牧師)